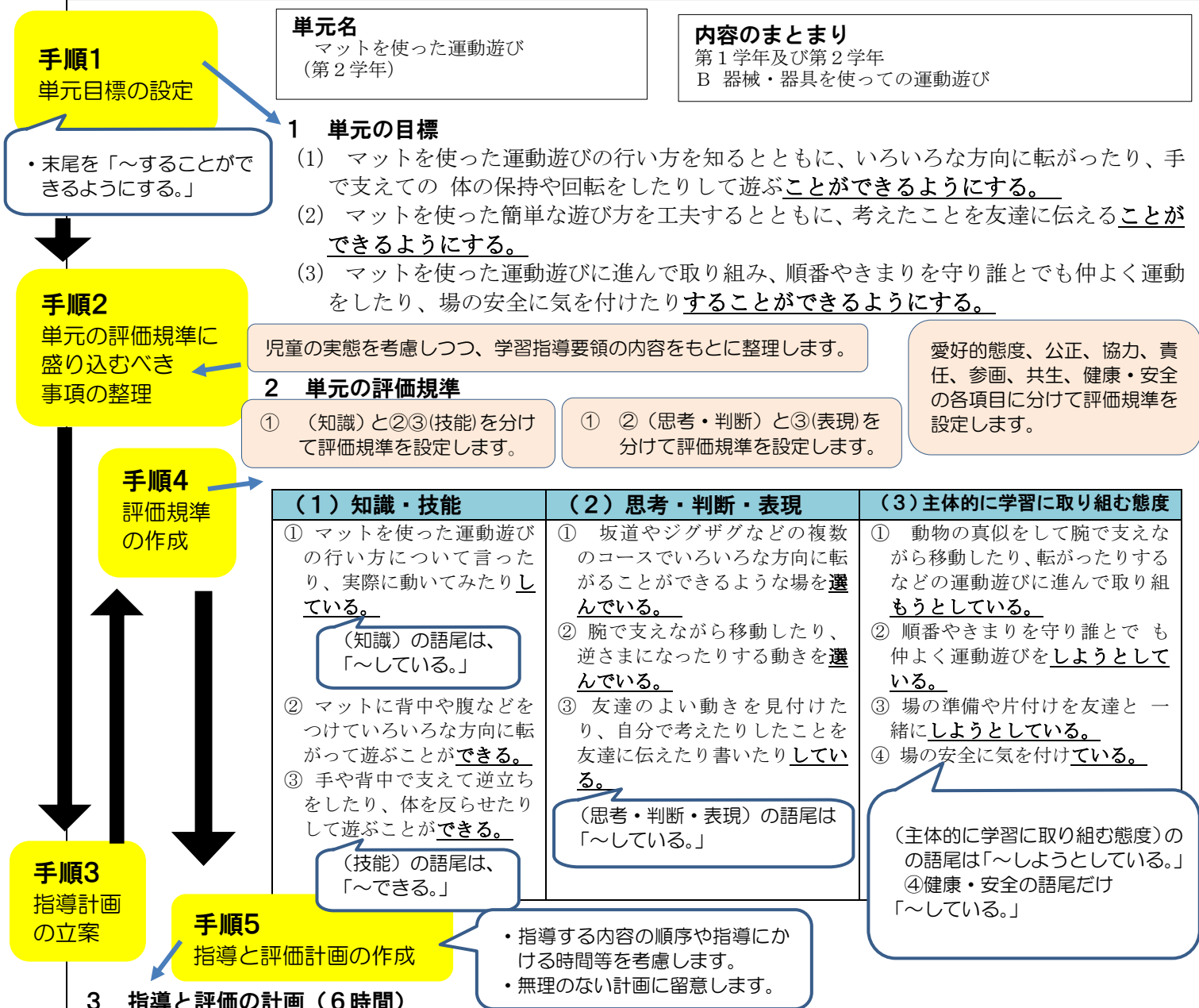


「指導と評価の一体化」のための学習評価（小学校体育科のポイント）【R2 NEW】



時間	1	2	3	4	5	6
0	オリエンテーション ・学習内容の確認 ・安全の約束の確認 ・場の準備や片付けの仕方の確認	場の準備→準備運動（感覚づくりの運動遊び）				
45	感覚づくりの運動遊びの紹介	<p>ころころランド ・前転がり ・後ろ転がり ・だるま転がり ・丸太転がり</p>	<p>ぴよんぴよんランド ・腕支持での川跳び ・腕支持での平均台跳び</p>	<p>さかさまランド ・跳び箱を使つて ・肋木を使つて</p>	<p>マットランドで楽しもう</p> <p>グループでマットランドの場を作つて楽しむ。作つたランドをグループ同士で紹介し合つて楽しむ。</p> <p>他のグループが作つたランドで楽しむ。もっと楽しいランドになるよう工夫する。動きのバリエーションを楽しむ。</p>	
		振り返り→遊びのバリエーションの紹介				
		転がり方を組み合わせる。	腕立て横跳び越し	さかさまからのブリッジ		
		振り返り→整理運動→片付け				
知※		② 観察・ICT	③ 観察	① 観察		
思			③ 観察・カード		① 観察	② 観察
態	④ 観察	③ 観察		① 観察	② 観察	

※ 知…「知識・技能」、思…「思考・判断・表現」、態…「主体的に学習に取り組む態度」

4 本時の展開（例：第2時） 単元の評価規準に即した「児童の具体的な姿及び評価方法」と「十分満足で来る姿」を設定します。

分	●学習内容・活動（・予想される児童の反応）	指導上の留意点（○指導 □支援 ・配慮 ◆評価規準）
導入 2分	<p>●場の準備をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで協力してマットを運ぶ。 ・場の配置図を見ながら、落ち着いて運搬する。 	<p>○4人組でマットを運んだり、2人組で踏切板を運んだりできるようにする。</p> <p>◆場の準備を友達と一緒にしようとしている。</p>
	<p>「十分満足できる姿」の設定例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場の準備を率先して行っている。 ○責任や参画に関する態度においては、グループでの活動等で生じる自分の役割を十分に果たそうとしている姿で見取ることが想定されます。 	<p>「児童の具体的な姿や評価方法の例」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力してマットや用具の準備をしたり、声をかけ合って運んだりしている。（観察） <p>□準備がうまくできていない児童を指導しながら、場の準備についての知識を見取る。</p> <p>○BGMを流しながら、一つ一つの動きを丁寧に行うよう助言する。</p> <p>□首、手首、腰、膝関節等のほぐしに留意する。</p>
5分	<p>●感覚つくりの運動遊びをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとにイヌ歩き、ウマ歩き、ワニ歩き、しゃくとりむし、うさぎ跳び、かえるの足打ち、ゆりかご、ブリッジをする。 	<p>○本時のめあてを示す。</p>
展開	<p>●ころころランドで楽しもう。</p> <p style="text-align: center;">めあて：ころころランドでいろいろな転がり方をして楽しもう</p>	<p>○基本となる転がり方を紹介し、一人ずつ順番に行うようにする。</p> <p>◆マットを使った運動遊びの行い方について言ったり、実際に動いてみたりしている。</p>
8分	<ul style="list-style-type: none"> ・基本となる転がり方をして遊ぶ。 前転がり 後ろ転がり だるま転がり 丸太転がり 	<p>○基本となる転がり方を紹介し、一人ずつ順番に行うようにする。</p> <p>◆マットを使った運動遊びの行い方について言ったり、実際に動いてみたりしている。</p>
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫した転がり方をして遊ぶ。 忍者転がり 手つなぎ転がり ○○転がり（自由なネーミングで） 	<p>○基本となる転がり方を紹介し、一人ずつ順番に行うようにする。</p> <p>◆マットを使った運動遊びの行い方について言ったり、実際に動いてみたりしている。</p>
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・マットの形を変えて遊ぶ。 坂道マット ジグザグマット 正方形マット でこぼこマ 	<p>○基本となる転がり方を紹介し、一人ずつ順番に行うようにする。</p> <p>◆マットを使った運動遊びの行い方について言ったり、実際に動いてみたりしている。</p>
	<p>「十分満足できる姿」の設定例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動遊びの行い方の留意点を友達や教師に詳しく伝えたり、カードに書いたりすることができる。 ○知識においては、運動遊びの行い方をより詳しく言ったり書き出したりしている姿や、実際に正確に行っている姿で見取ることが想定されます。 ○技能においては、連続してできる、滑らかにできる、安定してできるなど、よりよくできる姿で見取ることが想定されます。 	<p>「児童の具体的な姿や評価方法の例」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マット遊びで行っているいろいろな遊び方の特徴を言ったり書き出したりしている。（観察・カード） ・マットの上でのいろいろな遊び方をしようとしている。（観察） <p>□うまく転がっていない児童に行い方を助言しながら、知識の有無を見取る。</p> <p>○児童からのアイデアを拾いながら、転がり方のバリエーションを広げるようにする。</p> <p>□前後の間隔や安全な転がり方に留意する。</p> <p>○児童の「楽しそう」「やりたい」を引き出し、マットの配置を変えたり、踏切板やボールなどを用いて傾斜や起伏を付けたりする。</p> <p>○自分や友達の楽しい転がり方を紹介し合えるようにする。</p> <p>□工夫した楽しい転がり方を紹介する。</p> <p>○場に「○○コーナー」など名前を付けて、児童が楽しく転がるようにする。</p> <p>□苦手な児童の転がり方のバリエーションが広がるように寄り添いながら指導する。</p>
5分	<p>●どんな転がり方ができたか紹介しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○さんは手を着いた前転がりだと、手を着かない前転がりをしていた。 ・いろいろな転がり方を組み合わせて回っていた。 	<p>□うまく転がっていない児童に行い方を助言しながら、知識の有無を見取る。</p> <p>○児童からのアイデアを拾いながら、転がり方のバリエーションを広げるようにする。</p> <p>□前後の間隔や安全な転がり方に留意する。</p> <p>○児童の「楽しそう」「やりたい」を引き出し、マットの配置を変えたり、踏切板やボールなどを用いて傾斜や起伏を付けたりする。</p> <p>○自分や友達の楽しい転がり方を紹介し合えるようにする。</p> <p>□工夫した楽しい転がり方を紹介する。</p> <p>○場に「○○コーナー」など名前を付けて、児童が楽しく転がるようにする。</p> <p>□苦手な児童の転がり方のバリエーションが広がるように寄り添いながら指導する。</p>
10分	<p>●いろいろな転がり方をしてさらに楽しもう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の行い方を真似て、いろいろな場で転がって遊ぶ。 	<p>○自分や友達の楽しい転がり方を紹介し合えるようにする。</p> <p>□工夫した楽しい転がり方を紹介する。</p> <p>○場に「○○コーナー」など名前を付けて、児童が楽しく転がるようにする。</p> <p>□苦手な児童の転がり方のバリエーションが広がるように寄り添いながら指導する。</p>
整理 3分	<p>●学習を振り返ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の活動の振り返りをする。 ・今日のキラ星さんを発表する。 	<p>○学習カードをもとに、振り返るようにする。</p> <p>□友達の動きのよいところを認め合えるように言葉がけをする。</p> <p>○友達と協力して安全に片付けるようにする。</p> <p>◆場の片付けを友達と一緒にしようとしている</p>
2分	<p>●場の片付けをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割に合わせて、場の片付けをする。 	<p>◆場の片付けを友達と一緒にしようとしている</p>
	<p>「十分満足できる姿」の設定例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場の片付けを率先して行っている。 	<p>「児童の具体的な姿や評価方法の例」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力してマットや用具の片付けをしたり、声をかけ合って運んだりしている。（観察）

5. 毎時間の観点別評価の進め方

(1) 指導と評価の重点化

- ・毎時間の指導においては、重点的に指導する内容（以下、「重点内容」と表す）を絞り、指導します。
- ・技能や主体的態度のように、習得や活用の段階等を踏まえ一定期間を置くなど、指導と評価の時期をずらして評価を行う場合もあります。
- ・重点内容と本時の評価の観点が必ずしも一致するものではないことに留意します。

(2) 評価後の指導の継続と再評価の重要性

- ・単元の前半に評価の機会を設定した項目において B または C であったものを、単元の終盤までに A または B となるよう指導の充実を図ることが本来の評価の在り方です。単元の前半に評価したことをもってその観点の評価を確定することに留意する必要があります。
- ・指導したことがどの程度身に付いているかを評価することは、単元の途中や終盤等において指導方針の修正を図るうえで極めて重要です。
- ・単元の目標を踏まえて評価規準を作成し、評価の観点を明確にしたうえで指導に当たります。

(3) 指導と評価の計画の柔軟な運用

- ・育成を目指す児童の姿を評価項目の視点から想起し、指導の充実につなげることは、授業改善を図るうえで重要です。指導と評価の計画は、育成を目指す資質・能力と指導内容及び評価の具現化を図ることに資するものであるため、児童の実態等に応じて、適宜修正を加えながら柔軟に作成することが大切です。

「知識・技能」について

<低学年の「知識」について>

言葉や文章など明確な形で表出する部分のみでの見取りにならないようにします。

例) 自転車の乗り方、箸の持ち方

<中・高学年の「知識」について>

「わかってできた」というところを指導します。

例) ハードル・・・同じ足で踏み切る。同じ歩数でインターバルを駆け抜ける。⇒実践し記録が伸びた。

「思考・判断・表現」について

言葉や動作での表現。教科等横断的に育てていく。歓声や表情、身振り、拍手など様々な表現が含まれます。

「主体的に学習に取り組む態度」について

以前より「態度」を指導内容として示していることから内容に「学びに向かう力、人間性等」として、指導内容に明記されています。指導内容が明確になっており、粘り強い取り組み、学習を調整しようとする姿を目指します。

指導改善・評価方法の妥当性の検討

6. 総括的評価の考え方

	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	総括
知		②→B	③→B	① →B			B
思			③→B		①→A	②→B	B
態	④→B	③→A		①→B	②→A		A

- ・同一の観点において、A と C が混在することは想定していません。例えば「知識・技能」において、知識は C だが技能は A といった評価は、技能の見取りを確かとするならば知識の見取りが不確かであると想定されるため、知識の評価を再考することが検討されます。また「思考・判断・表現」において、思考・判断は A だが表現は C（又はその逆）となった場合には、それぞれの見取りが不確かであると言わざるを得ません。さらに「主体的に学習に取り組む態度」においても、愛好的態度が C であっても、友達と助け合う姿が A などということ（又はその逆）は考えられず、C または A となった観点の見取りを再考することが想定されます。
- ・育成を目指す資質・能力の3つの柱は、目指す児童の姿とそのための指導の在り方が相互に関連しているため、総括的評価の際に3観点にAとCが混在することについても、十分に留意することが求められます。例えば、「知識・技能」がAであるような児童で、「思考・判断・表現」又は「主体的に学習に取り組む態度」がCということは、殆どの場合においては想定されません。「知識・技能」が十分満足できる状況であれば、「思考・判断・表現」の様子が見取れたり、「主体的に学習に取り組む態度」が概ね以上に身に付いていたりすることが想定されるためです。しかし、児童の学習状況等によっては、必ずしもそうはならない場合があることも考えられるため、十分に留意することとしています。